

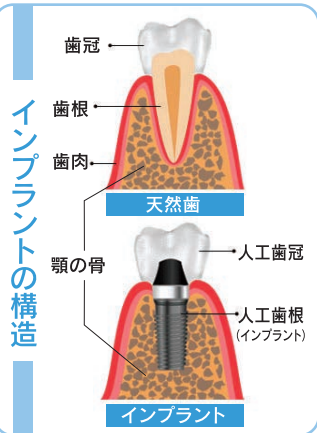
医療

早期発見・早期治療のススメ

シリーズ 医療新時代

義歯やブリッジに代わる『インプラント治療』

歯の機能回復が高まる



歯を失った場合の治療法は、これまで義歯(入れ歯)かブリッジが定番でした。それが「インプラント治療」の登場で様相が変化してきました。そこで、今号から3回に分けてインプラント治療について特集します。第1回は「インプラント治療とは」です。

◆ 精神的負担を解消
歯を全部失った場合には、従来の治療法では義歯を入れることになりませんが、義歯はアゴの粘膜の上にあるため、話している時や食事をしていない時に、動いてしまったり、外れてしまったりすることがあります。また、一本から数本の歯を失った場合は、部分義歯かブリッジという固定式の義歯にしなくてはなりません。ブリッジの場合は両側の歯を削る必要があります。部分義歯は違和感があったり、掛けてある歯が悪くなったりしますし、義歯を取り外すたびに、歯がないことを意識しなければならず、「口の中が老いてしまった」と精神的な負担を感じられる人も多いのが実状です。また、インプラント治療は固定式なので固い物もしっかり噛めますし、粘性のある食物を食べても外れる心配がありません。

◆ 精神的負担を解消
歯を全部失った場合には、従来の治療法では義歯を入れることになりませんが、義歯はアゴの粘膜の上にあるため、話している時や食事をしていない時に、動いてしまったり、外れてしまったりすることがあります。また、一本から数本の歯を失った場合は、部分義歯かブリッジという固定式の義歯にしなくてはなりません。ブリッジの場合は両側の歯を削る必要があります。部分義歯は違和感があったり、掛けてある歯が悪くなったりしますし、義歯を取り外すたびに、歯がないことを意識しなければならず、「口の中が老いてしまった」と精神的な負担を感じられる人も多いのが実状です。また、インプラント治療は固定式なので固い物もしっかり噛めますし、粘性のある食物を食べても外れる心配がありません。



添島 義樹 副院長
日本口腔インプラント学会認定医
中島学園非常勤講師

◆ 「インプラント治療とは」
インプラントとは別名「人工歯根」と呼ばれます。歯がなくなった部分の骨に人工歯根を埋め込み、人工歯冠と組み合わせる一連の治療を「インプラント治療」といいます。そこで今回は「インプラント治療とは」について、添島歯科医院(熊本市桜町)の添島義樹副院長に、お話を伺いました。

◆ 天然歯とほぼ同じ機能回復へ
現在のインプラント(人工歯根)はほとんどが生体との親和性が高いチタンという金属で造られています。チタンは長年の基礎的、臨床的研究からインプラントの材料として最も安全であり、また顎の骨と長期にわたり結合することが確認されています。インプラントと顎の骨がしっかりと結合すれば、その上には丈夫で安定した歯を造ることが出来ます。日本にインプラント治療が導入されて30年以上が経過し、長期的な安定性や有効性が確立されました。患者数増加にともない、治療ができる歯科医も年々増えています。インプラント治療は、義歯やブリッジがもつ欠点がなく、もともとあった歯のように機能を回復させることができる治療法として、今では市民権を得たとはいえるでしょう。(次号ではインプラント治療の具体的な有効性などについて特集します)

◆ 現在のインプラントは骨統合型
なくなった部分の顎の骨に埋め込む、主にチタン製でできた人工歯根のことをいいます。

◆ 患者さんの数は増えているので専門医に十分相談を
はい。日本口腔インプラント学会の調査でも年々、患者数が増加していることが報告されています。このことはインプラント治療が、一般の方々に認知された証拠だと思えます。治療に当たっては一度かかりつけの歯科医にご相談されて、十分に治療内容を理解された上で、判断していただくことをお勧めいたします。

◆ インプラントとは人工歯根
インプラントとは具体的などのようなものですか?
天然歯の構造は歯の表面が見える部分を歯冠(しかん)、その下の見えない部分を歯根(しこん)、一般的に歯茎と呼ばれる歯肉(しにく)に大きく分かれ、それを支えるのが上下の顎の骨です。インプラントとは、歯がなく

◆ 1本から全歯欠損が治療対象
歯が欠損した場合、すべてが治療の対象になりますか?
前歯や奥歯にかかわらず1本の歯から全歯欠損までを対象としています。歯が抜けた場合の治療方法にはインプラント、義歯(入れ歯)、ブリッジ

◆ 脳卒中の初期症状
脳卒中は、脳の動脈の壁にコレステロールなどが沈着して生じる動脈硬化が引き金で、その表面に血小板・白血球などの血液成分が付着して、血のかたまり(血栓)ができ、これによって脳内の動脈が詰まってしまう病気です。詰まった先の脳には血液が流れないため、脳は酸素とブドウ糖を断たれて死んでしまいます。脳血栓は別名「アテローム血栓性梗塞」ともいわれています。

熊本インプラントセンター
添島歯科医院
熊本市桜町1-28-205 桜町センタービル2階
0120-354508
http://www.soejima-sika.com/

生活習慣病 あらから 脳卒中編 その⑧
「脳血栓」の中とは。
脳卒中の中で死亡率が約6割を超えているのが脳梗塞です。脳梗塞は脳の血管が詰まって起こる病気と以前簡単に説明しました。その中で今回は「脳血栓(のうけっせん)」について少し詳しくまとめました。
脳血栓は、脳の動脈の壁にコレステロールなどが沈着して生じる動脈硬化が引き金で、その表面に血小板・白血球などの血液成分が付着して、血のかたまり(血栓)ができ、これによって脳内の動脈が詰まってしまう病気です。詰まった先の脳には血液が流れないため、脳は酸素とブドウ糖を断たれて死んでしまいます。脳血栓は別名「アテローム血栓性梗塞」ともいわれています。

脳卒中の初期症状
急に頭が痛くなる吐き気を伴う
ろれつが回らない
全身に力が入らず歩けない
食事中にはしを落とす
顔の半分と片方の手足の感覚がおかしい
その他に、片目が見えない、視野が半分になる、言葉が理解できない、言いたいことが言えないなど

おばあちゃんのお知恵袋
食材の生かし方と健康法...
こんな使い方もありますよ!
現在のように医学が発達していなかった時代、家族の健康管理は母親の役目でした。家族が病気をしないように健康に気を配り、また、病気をした時には、一日も早い回復を願い、さまざまな言い伝えられてきた療法を試み、病気に立ち向かいました。民間療法とはこのように何十年もの時を経て、祖母から母へ、母から子へと語り継がれた庶民の健康管理の知恵であり、試行錯誤を経て語り継がれた治療法です。自然のものを活用して穏やかに体質を改善し、病気を治し健やかに生きる知恵は、時代を超えて今なお説得力があり、学ぶべきことが多くあります。旬の食材が余った時にチャレンジしてみませんか。

■免疫力を高める「エビの殻の粉末」「カニの殻の粉末」
エビの殻には免疫力を強化するキチン質が含まれています。毎日、服用すると免疫力が高まります。同様にカニの殻にも豊富に含まれていますので、無駄なく利用しましょう。
<作り方>
エビの殻はさっと洗い、よく炒めてから粉末にします。フリカケに混ぜたりして、毎日取るようにします。カニの殻も同様です。
■打ち身に効く「沢ガニの粉末」
カニには「補陰作用」という筋肉や骨を強くする働きがあります。また、体内の余分な熱を冷ます作用もあり、発熱や腫れや痛みにも効果があるといわれています。
<作り方>
すり鉢に生きた沢ガニ(5匹位)を入れてすりつぶし、卵黄1個分と小麦粉を加えてよく練り合わせます。これを打ち身の部分に貼ります。

■喉の渇きに効く「アサリのスープ」
アサリには利尿作用や胃腸を整える作用があります。喉の渇きを抑える働きもあり、特に糖尿病による喉の渇きに効果があるといわれています。
<作り方>
アサリはよく砂抜きし、鍋に水と一緒にに入れて火にかけます。沸騰したら中火にして、しばらく煮ます。アサリ250gに対して水3カップを目安にして下さい。

